

報道関係各位

令和 6 (2024) 年 9 月 17 日

千葉市近隣美術館連絡会

佐倉市立美術館

千葉県立美術館

千葉市美術館

成田山書道美術館

DIC 川村記念美術館の発表について（声明）

去る令和 6 年 8 月 27 日に、DIC 株式会社が開示した「美術館運営」に関するお知らせ（「価値共創委員会による「美術館運営」に関する助言並びにそれに対する当社取締役会の協議内容と今後の対応についての中間報告」）について、私たち「千葉市近隣美術館連絡会」は、その内容の重要性をしっかりと受け止め、事態を冷静に見極めつつ、以下のような考え方をとりまとめて表明いたします。

はじめに、数々の困難を乗り越えながら、1990 年に DIC 川村記念美術館を創設し、34 年にわたって運営されてきた DIC 株式会社および創業家の川村家に対し、心よりの敬意と深甚の感謝の意を表します。

西洋の近現代美術を軸としたそのコレクションは、内外から高く評価されています。またそのコレクションを核にした展示活動、研究活動、大きな展示室を前提とした教育普及活動は先駆的なものを多数含み、それらが来館者への上質なサービスとともに提供される空間は日本の美術館の指針の一つとなるものであり、多くの美術ファンに愛され、楽しまれてきました。近隣美術館もその真摯な活動に常に刺激を受け、連携する中で多くを得てきたことに、深く感謝しております。こうしたコレクションとその活動が、佐倉市の広大で美しい敷地のなかに、一体となって示されてきたことこそ、大きな意義やその理由があると信じます。江戸期から続く豊かな文化を背景に、実績ある美術館と博物館が集中した稀有なこの地域と、DIC 川村記念美術館が融合された環境は、あるべき美術館の姿の、一つの典型だとも考えられます。

現在、DIC 株式会社がさまざまな経営課題を抱えておられ、美術館の公益性や企業の社会貢献の側面のみにとらわれていたら、事業を継続させることが難しい事態だということを十分に理解しています。しかしあえて、私たち千葉市近隣美術館連絡会は、DIC 川村記念美術館がこれまでどおり佐倉市に存続し、従来の活動を展開されていくことを願っています。コレクションと活動の「ダウンサイズ」が不可避であったとしても、この地で歴史をつないでいかれることに、大きな希望と期待をもっています。

※千葉市近隣美術館連絡会とは：

千葉市近隣の美術館が、相互の運営が円滑に進むように連絡会を催すなどの活動をするため、平成 11（1999）年に発足した組織です。現在、佐倉市立美術館、千葉県立美術館、千葉市美術館、DIC 川村記念美術館、成田山書道美術館（50 音順）の計 5 館が加盟しています。これまで、年度毎にさまざまな情報交換・意見交換するほか、企画の連携や巡回バスの共同運行などの事業を行ってきました。

※本件の問い合わせ先：

千葉県立美術館（千葉市近隣美術館連絡会担当）

電話：043-242-8311